

第4回アジア・オセアニア小児神経外科学会演題応募及び参加のお願い

日本脳腫瘍学会会員の皆様、

残暑厳しい日々が続きますが、心なしか秋の訪れを感じることもできるようになりました。

現在、上記第4回アジア・オセアニア小児神経外科学会 (Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery: AASPN) 開催に向けて、鋭意準備中です。これまで、日本小児神経外科学会広報を通じて演題募集のお願い、締め切り延長 (9/15 日まで) を行ってまいりました。今回、改めて日本脳腫瘍学会の皆様にもお願い申し上げる次第です。

AASPN2023 における脳腫瘍関係のトピックは以下の3点です。

1. 脳腫瘍診療ガイドライン小児悪性脳腫瘍の紹介を兼ねた "Introduction of Japanese Guideline for Pediatric Brain Tumors" を plenary session として予定しています。ここでは、各腫瘍 GL 委員長の先生に概要を説明していただき、それに対して欧米からの招待演者、AASPN の Faculty member に評価していただくと同時に、演者の management についても紹介していただき discussion します。現在、GL 委員長の先生方には発表を要約した資料作成をお願いしており、これをあらかじめ予定している commentor の先生方に送り、準備の参考にしていただく予定です。(SEGA については、てんかんとの関係で取り扱います。) 現時点で予定している discussant は以下の通りです。

DIPG: George Jallo (USA), AASPN (Chandrashakher Deopujari)

GCT: Tai Tong Wong (Taiwan), Jie Ma (Shanghai), Jian Gong (Beijing)

Medulloblastoma: Francesco Sala (Italy), Basan Pant (Nepal)

Ependymoma: Frederick Boop (USA), Muh-Lii Liang (Taiwan)

Optic/hypothalamic glioma: Giuseppe Cinalli (Italy), Seung Ki Kim (Korea)

又、上記に引き続き special lecture では Boston の Edward R Smith 先生に

Novel topic of urinary biomarkers in diagnosis of brain tumors

として講演していただく予定です。ついでながら Edward 先生にはモヤモヤ病の urinary diagnosis についてもモヤモヤ病 session でお話しいただく予定です；

2. 最終日の closing symposium として "Controversies in surgical management of pediatric brain tumors" を予定しています。概要は以下の通りです。

1: What is the best practice for pediatric craniopharyngioma?

Answer: Shlomi Constantini (Israeli), Dong Seok Kim (Korea), Songbai Gui (China)
Frederic Boop (USA)

2: Convection Enhanced Delivery in DIPG: does it the way to go?

Answer: George Jallo (USA), Ryuta Saito (Japan)

3: Low grade glioma as an incidentaloma: Surgery or observation?

Answer: Ulrich W Thomale (Germany), Ronnie E Baticulon (Philippines)

3. 今回の学会にはアジア・オセアニアの17ヶ国から参加があります。これまでのAASPNコンGRESは日本・韓国・台湾・インドが中心でしたが、今回が初めて本当の意味でのアジア・オセアニアを代表する学会となります。当初、参加は困難と思われていたミャンマー・カンボジア・モンゴルからも参加され、又韓国・台湾・インドネシアからは20名近くの参加を予定しているとの連絡も受けています。さらに、今回、国際舞台に初めて北京の小児神経外科医が登場します。その中でも首都医科大学付属北京天壇医院の小児脳腫瘍手術件数は年間1200件と聞いています。Gong教授は昨年新たに責任者になったばかりですが、今後の学術交流を進めていく上で、是非皆様にも個人的知己を得ていただければと思います。

学会、Invited Guests, AASPN Faculty の一覧は下記ご参照ください。

AASPN 2023 HP: <https://www.narunia.co.jp/aaspn2023/index.html>

Invited Guests: <https://www.narunia.co.jp/aaspn2023/sub2.html#cc2>

AASPN 2023 Faculty: <https://www.narunia.co.jp/aaspn2023/sub1.html#cc5>

AASPN2023 プログラムは近日中に HP 掲載の予定です。

現時点まで、抄録登録数はまだまだ国内からの応募件数が AA 諸国より低いレベルに伴っています。是非、日本脳腫瘍学会会員の皆様におかれましては、先生方のみならず若手脳神経外科医にも呼びかけ、是非一題でも多くの演題抄録を提出していただければと思います。よろしくご高配・ご支援の程、お願い申し上げます。

2023年9月2日

第4回アジア・オセアニア小児神経外科学会学術集会会長

白根礼造 (宮城県立こども病院)

師田信人 (北里大学病院)